大聖院・未来フォーラム第2号/平成18年12月10日発行/取材：編集：ディア・フォロン/発行：未来フォーラム編集部/〒730-0022 広島市中区銀山町8-4　WILL101/TEL：082-545-0821

こころみち

cocoromichi

片手は自分の幸せのために もう片方は誰かのために。

地球上の三分の一の酸素を
生み出しているアマゾンの熱帯雨林。
その大切な熱帯雨林が
危機に瀕しているという。
毎年、広島県の三倍の面積が消失し
異常気象、地球温暖化の
一因ともなっていると訴える
熱帯森林保護団体の南研子さん。
十七年間で二十一回も
アマゾンに通い、インディオと
数ヶ月間、生活をともにしながら
アマゾンの保護にあたる。
「私たち日本人にとっても
他人ごとではないんです」と語る
南さんの熱くも自然なメッセージ。
心動かされるその勇気と活動の
源をお聞きしました。

大聖院・未来フォーラム

対談・2

ゲスト　南 研子 氏

宮島ルネッサンス

蘇る宮島文化と
新しき担い手の台頭。

しゃれたカフェ・バーは青年の「夢」のカタチ。

宮島・町家通りから宝寿院へ向かう道の右手。土塀が美しい和風のカフェ・バー「伊都岐」。オーナーの佐々木恵亮さんは二十三歳。地元の人たちや噂を聞きわざわざ足を運ぶ観光客でにぎわう。

佐々木さんは、かつて話題にもなった学生人力車の一人で「いつかこの宮島でお店を持ちたい」と、考えていたという。「できる限り自分たちでできることは自分たちで」と、少ない資金の中、いい仲間や宮島の理解者を得て、三ヵ月で開店したという。

「ここでしかできないお店でありたい」コーヒーは自家焙煎。ケーキも手づくり。豪華でも贅沢でもない、宮島の町家を生かしたシンプルな美しさと、センスのいい小物がきらりと光っている。

若者たちの感性で出来上がった「伊都岐」は、新しい宮島が誕生する前兆かも知れない。

南研子さんの新刊発売 アマゾン、森の精霊からの声

今回のゲスト、南研子さんの新著「アマゾン、森の精霊からの声」が(株)ほんの木から出版されました。文章と二百二十点以上の写真で綴る、ドキュメンタリーなフォト&エッセイ。アマゾンの危機、地球の危機を訴えています。

宮島スポット

霊火堂

霊火堂にある弥山の七不思議の一つ「きえずの火」は、806年に弘法大師が修行を行なって以来、1200年も消えることなく燃え続け、広島平和記念公園の「平和ともしび」のもと火にもなっています。2005年火災で焼失しましたが2006年7月、1年2ヵ月ぶりに再建されました。

大聖院・未来フォーラム

対談・2

ゲスト　南 研子 氏

自然災害は、「根本を考えなくてはいけない」という自然の警鐘だと思う。

吉田　南様の「アマゾン・インディオからの伝言」を読ませていただきました。

南　ありがとうございます。

吉田　アマゾンには、なかなか行けるものではないと思うのですが。二十一回も行かれた魅力は何でしょう。

南　足ることを知り、自然と共生するインディオの生き方でしょうか。そのアマゾンの森林保護のために私にできることがあればと。

吉田　近年宮島も自然災害がひどく、原始林にも大きな被害がでています。専門家の方は、自然に倒れた木は自然に戻る。原始林は長いサイクルで見ないといけないとおっしゃるのですが、最近は災害のサイクルが早く、再生する前に次の災害が来てしまうんです。

南　アマゾン同様、この宮島の自然の破壊も地球全体に影響するかもしれない。「地球は、ひとつの命」として、繋がりを認識しないと、自然を再生するのは難しいんじゃないでしょうか。

自然災害は、「根本を考えなくてはいけない」という自然からの警鐘だと思うんです。

吉田　そのサインを私たちは上手く読み取れないんですね。自分の身近な事しか考えられませんから。

南　片手は自分が幸せになることを考えてもいい。でも、もう片方の手は、自分以外のものに心を砕く。一人でも多くの方がそうして下さったら、ぜったい社会は変わると思うんですよ。

吉田　現在の個人主義、消費社会は、戦後六十年をかけて創り上げられたものですから、急に変えることは難しいでしょうね。一人ひとりがそれに気づき、漢方薬を飲み続けるように、時間をかけて変えていかなければと思います。とはいうものの、「自分ひとりでは無理だ」と思ってしまう人も多いのではないでしょうか。

南　「私がやっても手遅れだ」と思うか、「私からはじめよう」と思うか、ちょっとした物事のとらえ方ですよね。私は「自分は無力かもしれないけれども、十人、百人になると人の力は思わぬ良い方向に行く」と、希望をいつも持ち続けているんです。

自分は無力かもしれないけれども、希望はいつも持ち続けているんです。

吉田　アマゾンに関しても、南さんたちの活動が、影響を与えていると思います。広島にも賛同者が沢山いらっしゃいますし。思いが強いから、伝わっていくのだと感じます。

南　私はパズルのひとつのピースでしかないと思うんですね。「アマゾンの楽園を残す」という完成図を心の中にしっかり持って、ひとつのピースになる種を皆さんに植えているようなものです。

吉田　お話を伺い、「私たちは地球に何ができるのだろうか」と考えるようになりました。

南　研子
熱帯森林保護団体ＲＦＪ代表。
女子美術大学油絵科卒業。
1989年英国の歌手スティングの「アマゾンを守ろう」ワールドツアーでアマゾンの先住民リーダー、ラオーニと出会い、同年当団体を設立。17年間で21回アマゾンを訪問。生活をともにしながら支援活動を続けている。著書に「アマゾン、インディオからの伝言」他。

吉田　正裕
1960年生まれ。広島県出身。
種智院大学仏教学部及び仁和密教学院卒業後、真言宗御室派大本山大聖院勤務。
1990年高野山真言宗真光院住職（現在も兼務）。
1998年真言宗御室派大本山大聖院座主に着任。現在に至る。
仏教のみならず、スポーツ、教育、町づくりなど幅広く活動。